

令和7年度 檜原美容専門学校 学校評価計画表

教 育 目 標	「自主」、「責任」の校訓に則り、地域で活躍できる美容師の育成を目指す。		総合評価
運 営 方 針	個々の生徒の能力や個性を見極め、一人一人の力を最大限に伸ばす。		
	教育目標を全教職員が共有し、学校改善に向けて一丸となって取り組む。		
	地域の理解と応援が得られるよう教育活動の理解と広報に努め、学校関係者とのコラボレートに努める。		
○令和6年度の成果と課題	本 年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	A
基本的生活習慣の定着と実践的な技術教育の充実に努めた結果、学生の学習意欲や職業意識の向上が見られ、就職指導においても成果を上げることができた。一方で、国家試験合格者の向上や退学率の低減、個々の学力や進路に応じた支援体制のさらなる充実が今後の課題である。	国家試験合格に向けた、長期的な指導計画の確立	カリキュラムの改善と効果的な教材、授業法を工夫する。一人一人に応じた指導法を検討する。	
	就職後に役立つ実践型教育の充実	外部（サロン経営者等）からの意見を取り入れたカリキュラムの改善と多様化するニーズに応じる実践教育の充実。	
	コミュニケーション能力と社会人マナーの育成	社会人としてのルールやマナーを身につけさせる。目標を明確にさせ、最後まで努力を続ける力を養う。	
	校外授業の多様化と地域連携の開発	地域社会で活躍する人材育成に必要とされる機会の提供と、地域貢献に参加できる喜びの指導を行う。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策と評価指標	中間期（9月）		年度末(3月)			
			自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析)

※評価基準: 目標達成→A、目標値の80%達成→B、目標値の60%達成→C、それ以下→Dとする。但し、項目によっては個別に、評価指標欄にて別途基準の作成可。

学校運営	運営方針に沿った事業計画を策定し、その達成に努める。	・計画的に事業の進捗度や達成度を点検し、成果と課題を明らかにするとともに、次年度に向けた運営の見直しを図る取り組みが行われ、年度方針に対して100%以上の職員が達成感を示した。	B	職員会議に提出される議案事項や事業案等、年度計画の達成に向け全職員が一丸となり、遂行されている。	A	A	学校運営システムの運用により、円滑に滞りなく安定した運営が行われた。中長期・短期計画も順調に準備が進められている。	中長期に向けた、新たな目標を設定し、向上心を持って、日々の努力を怠らず、積極的に全教職員が一丸となり業務を遂行する。	学校目標や指針も明確であり、教職員が積極的に目標達成に向けて日々業務を遂行している。
	教員の組織体制や就業規則に関する規定を見直し、再整備する。	・組織的に課題や問題点が定義され、各科において改善策を講じることが出来た。残業時間の改善や休日出動での代休など90%で目標達成が行われた。	B	職員会議や役員会などを実施し、就業規則の見直しや働き方について検討を重ね、時代に合った組織強化が図れている。	A		システム化に成功し、勤務時間内での業務が完了できる環境が整った。組織体制も安定し次のステップにすすむ時期となった。	勤務時間内での業務の分担化が整備されたことにより、生産性が向上しDX化に向けた取り組みに着手する。	常にシステム構築に拘り就業改善に努めている。また、今後のDX化への進展を期待する。
教育活動	授業の工夫と各科目の学力向上	・分かりやすい授業を目指し、成績不振生徒に対する指導では、理解度・習熟度に応じた指導を行う。 ・成績不振の生徒数を1・2年とも20%減を目指す。	A	成績不振者の割合 (教科平均60点未満) 1年生 = 0% 2年生 = 0%	A	B	成績不振者の割合 (教科平均60点未満) 1年生 = 0% 2年生 = 0% (全生徒が進級・卒業)	全学生が国家試験合格と卒業を目指したシラバス・カリキュラムを日々検討し改善を行い、満足度NO.1を目指した学校創りを行う。	外部講師による即戦力授業など目標を就職後に向け、創意工夫がなされている。
	技能五輪と学生大会の金賞獲得に向けた指導方法の再構築	・計画的・組織的に指導方法を再構築し、技能レベルの維持向上を図る。 ・技能五輪は連続して上位入賞をめざす。近畿学生大会には、5名以上の優秀賞を出す。	B	全校生が一丸となり予選大会に出場。 県大会での受賞者は4種目で各7名の受賞。	B		第62回技能五輪全国大会・敢闘賞1名の受賞。 全国学生技術選手権大会への出場。	卒業生の活躍により伝統となった本大会に今後もチャレンジをする。	技術レベルの指針ともなる代表選手育成において課題が残る結果となった。次年度に期待をする。
	通信課程のカリキュラムの再構築	・国家試験合格率100%を目指したカリキュラムの構築と生徒の状況把握(学力度)の為のカルテを作成する。	A	個人カルテによる学習度の把握により、国家試験合格率が約80%を成し遂げた。	B		3年計画として組織強化の一つである通信課における指導上の基本理念の構築に関し、全員合格への指針を今一度見直し、さらに各教員の資質向上を図る。	継続的な指導計画の持続が実施出来るよう、組織的に会議を実施して行く。	国家試験の合格率に大きな課題が残された。今後の対策と改善点を見出し、早期解決を望む。
	社会人としてのルールやマナーの確立	・朝のあいさつ運動や言葉遣い等をきめ細かく指導し、自然と身に付くよう反復させる。 ・接遇研修を実施し、接遇マナー検定の資格を取得させる。	A	コロナも落ち着き積極的に挨拶を行っている。 接客マナー検定 合格率100%	B		挨拶が第一印象を左右することや、コミュニケーションのきっかけとなることを理解し、自然な声掛け、礼儀、笑顔、挨拶を行う。	当たり前のことが当たり前にできる教育を探究心を持って行う。	本業界で活躍する実践型教育において、欠かす事の出来ないルール・マナー教育は今後も継続的な指導を行ってほしい。
学修成果	国家試験合格者を上げる。	・国家試験準備のための学習計画を作成し、段階的な指導を行う。合格率は、屋間課程100%、通信課程100%以上を目指す。	A	前期国家試験結果 通信課程合格率 85.7%	B	B	後期国家試験結果 通信課程合格率 55.5% 屋間課程合格率 100%	国家試験合格率100%を目指した指導カリキュラム及び指導者研修会などの充実にを図る。	大きな課題を残した結果となった。指導教員の研修などを実施し、早期に改善を求める。
	退学率の低減に向けた取り組み	・定期的な個人面談を実施し、学生一人一人の状況を把握し、的確なアドバイスを行う。退学率は、屋間課程5%、通信課程20%以内を目指す。	A	上半期の退学率 屋間課程 2.7% 通信課程 2%	B		令和6年度の退学率 屋間課程 5.4% 通信課程 2%	全生徒が揃って卒業できる学校づくり、授業内容や指導方法、学生へのサポート体制を見直す。	きめ細やかな指導や相談の場を多く設けた結果が出ている。この指導を継続して欲しい。

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策と評価指標	中間期（９月）		年度末(3月)					
			自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)		改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析)	
学生支援	希望進路の実現	・組織的な就職支援体制の確立。就職率の向上を図るためガイダンスを３回実施し、希望進路の内定率１００％を目指す。	A	６月２日・６月１０日・６月１６日に就職ガイダンスを実施	B	令和７年度就職率　８８．９％（全体）		全生徒の就職に向けた取り組みが全職員で実施でき、生徒の可能性や将来への夢の実現に期待する。	産学連携からの就職への繋がりが実っている。卒業後の状況をなどを鑑みた次の取り組みを期待する。	
	経済的支援体制の整備	・学費の減免措置を継続するとともに、分納・延納制度を通して支援を行う。 ・就学支援のニーズ等を把握し、早期の解決策を提案する。	A	保護者との連絡を密に相談に応じる。振込・振替など納入方法の利便性の改善に加え、支払方法の相談などきめ細かく対応している。	A	A	国民金融公庫をはじめ、銀行からの教育ローンや民間の教育ローン、無利子による学期内分割制度など個々の状況を鑑み、様々な相談窓口開設し、決め細やかな対応を実施した。	様々な環境があり、様々な支援体制があるため、常に研修や情報収集にあたる。	新制度への対応など迅速に対応している結果が出ている。生徒・保護者の環境を考えた対応を続けて欲しい。	
	保護者との適切な連携	・三者懇談を充実させ、保護者ときめ細かく情報共有を行う。 ・１学期の三者懇談は全員を対象にする。２・３学期は問題を有する生徒について懇談を実施し、状況に応じて家庭訪問を実施する。	A	１学期の懇談は個別の生活・学習状況に応じて実施し、特に問題のある学生のみ三者懇談をした。	A		三者懇談や放課後の担任との会話など、生徒一人ひとりの進路や生活などをサポートできるよう心がけ、教職員間の連絡も密に行った	個々の家庭環境や地域社会での存在を把握し、適切な指導ができるよう教職員の研究や勉強会を行う。	計画された懇談の実施に加え、状況に応じた面談や連絡など密着した指導が表れている。	
教育環境	施設・設備の安全の徹底と防災体制の整備	・各担当者による毎月の安全点検と年４回の危険箇所点検を実施する。	A	安全点検・危険箇所点検の継続的な実施の徹底を強化、見直しをする	A	A	安全点検・危険箇所点検の継続的な実施の徹底を強化できた。	命の大切さを考え、今後も継続的に本業務を遂行する。	今後も継続的な点検・整備を求める。	
	学校の環境美化の推進	・毎日の清掃、週１回の大掃除、学期末の大掃除により学習環境の整備に努める。	A	全校舎実施させた。	A		地域清掃をはじめ、美容師としての心構えとしての清掃活動に年間を通し実施していく。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的に活動範囲を広げ、実施を求める。	
学生募集	学生の獲得に向けた広報活動の充実	・魅力的な広報誌やホームページの作成により、学校生活や学習成果を効果的にアピールする。 ・ナラ・ウェーブやホームページで学校の情報を地域や保護者に提供する。	A	様々なツールを使用した広報活動に努め、機関紙による情報提供を行った。	A	A	DX化を鑑みた新しい取り組みを始める。様々なツールを使い、効率的に募集活動を実施した。	今後も継続的に実施する。	募集活動において、県外進学率が益々高くなっている。	
		・県内を中心とした年３回以上の学校訪問を実施し、本校の認知度を高める。	A	５・６・７月に高等学校訪問を実施。１１・１２月に中学校訪問を計画している。	A		５・６・７・１１月に高等学校訪問を実施。６・７・８月に奈良県全域の中学校への訪問を実施した。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的な実施を求める。	
財務	学校の財政基盤の安定	・学生数の確保を図り、入学定員の充足を目指す。 ・在学生数に対応した効果的な財源分配を行い、経費節減を図る。	A	通信課程で充足率に改善対策が実施された。昼間課程の募集状況が今後も厳しいと予測される。	A	A	昼間課程の募集状況が目標値には届かなかった。昼間・通信とも安定的な入学者数を保つ創意工夫が必要と感じる。	次年度に向けた課題と組織強化、新しい募集体制の強化を図る。	産学連携事業など新しい制度やシステムを実施している。	
	有効かつ妥当な予算・収支計画の設定	・毎年、前年度の実績や諸事情を踏まえた確かな収入見直しを行い、理事会・総会の承認を得て計画設定を行う。 ・予算の進行管理を徹底し、収入の確保と適正な予算執行が図れたかどうかで評価する。	A	理事会・総会の承認を得て、適正な予算・収支計画が執行された。	A		理事会・総会の承認を得て、適正な予算・収支計画が執行された。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的な実施を求める。	
	財務についての適正な会計監査の実施	・会計士・税理士による月例経理指導を受けるとともに、監事による定時検査の実施と理事会・総会への監査報告の実施。 ・監査機能が確保できているかどうかで評価する。	A	顧問弁護士、税理士の指導のもと監査・理事会・総会の承認を得て、適正な会計監査が実施されている。	A		顧問弁護士、税理士の指導のもと監査・理事会・総会の承認を得て、適正な会計監査が実施されている。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的な実施を求める。	
	財務情報公開の体制整備	財務情報を公開された状態にするとともに、毎年、理事会・総会に示し、組合員全員に送付する。	A	通常総会が開催され、財務等における情報公開が行われた。	A		通常総会が開催され、財務等における情報公開が行われた。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的な実施を求める。	
社会貢献・地域貢献	学校の教育資源を活用した地域貢献の実施	・県や地域の事業に学生を積極的に参加させる。 ・毎週１回通学路を中心に清掃活動を行い、学校周辺地域への美化に努める。	B	地域清掃をはじめ、地域で開催するフェスティバルなどに積極的に活動、参加することができた。	A	A	地域の環境を良くするだけでなく、住民間の交流を深め、地域を活性化する効果もあるので持続可能な地域清掃活動を目指し実施していく。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的な実施を求める。	
	公共職業訓練の更なる充実	・求職者支援・委託訓練についての受託は、積極的に実施する。 ・面接を通し、１００％以上の就職率を目指す。	A	令和７年度実施 総合美容科　１コース実施	A		コースの充足率も上がり、安定した運営が実施された。就職率も向上し追跡調査も順調である。提出書類などの管理システムも構築された。	今後も継続的に実施する。	今後も継続的な実施を求める。	